

日本政府主催 ReCAAP 10 周年記念レセプション 黄川田外務大臣政務官挨拶

各国代表団、ご来賓の皆さま、

1 本日は、日本政府主催のレセプションにご参加いただきありがとうございます。外務大臣政務官の黄川田です。ReCAAP 10 周年を祝い、日本政府を代表して皆さまをお迎えできますことを非常に嬉しく思います。

2 日本は、海洋国家です。海に囲まれ、海によって生き、海の安全を自らの安全と考えてきました。アジアの海をオープンなものとし、自由で、平和なものとするのが、アジア太平洋地域、更には国際社会全体の平和と繁栄に必要不可欠と信じています。

3 このような観点から、日本は他の締約国と協力して ReCAAP 情報共有センター（ISC）の海賊対策を発足当初から支援してきました。日本は歴代の事務局長及び事務局長補を派遣するとともに、主要なドナーとしてその能力構築活動に財政支援を提供してきました。

4 また、この機会に改めて私は ReCAAP・ISC のホスト国であるシンガポール政府、そして ReCAAP 総務会においてリーダーシップを発揮されてきたポンチャイ議長に心より感謝申し上げます。そして、また、これまで多年にわたって事務局を率いてこられた遠藤事務局長の尽力に感謝をしたいと思います。さらに、黒木氏が新たに次期事務局長に指名されたことをお祝いし、黒木氏の下で ISC の活動が更に強化されていくことを希望します。

5 「開かれ安定した海洋」を維持しようとする日本の取組はアジアにとどまりません。日本は 2009 年から、海上自衛隊の二隻の護衛艦と二機の P-3C 哨戒機で、他国と緊密に協力しつつ、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動に従事しています。現在、「ゆうだち」と「ゆうぎり」という二隻の護衛艦が、海賊対処活動を引き継ぐためのアデン湾への途上、シンガポールに寄港しています。派遣海賊対処水上部隊司令である井上高志 1 佐も今日ここに参加されています。彼らは他国の派遣部隊とともに東アフリカの灼熱の中で任務に従事します。私はこれらの任務に対し深甚なる敬意を表するとともに、かれらが故郷から遠く離れた地での任務を完了し、安全に帰還することを願います。

6 「開かれ安定した海洋」を維持するために、日本はR e C A A Pの下での地域協力と、巡視艇の供与や技術協力、人材育成を通じてアジアの沿岸国の海上保安機関の能力の向上を引き続き支援して参ります。我々はアジアの海賊・海上武装強盗対策における地域協力を強化するため、共に手を携えなければなりません。

7 明日の10周年記念ハイレベル会合が実り多き成果を上げることを祈念し、歓迎の御挨拶といたします。どうもありがとうございました。

(了)